



プレゼンテーションセミナー 2014

筑波大学 No.1 プレゼンターからプレゼンテーションの極意を盗む

12/2(火)に開催されたプレゼンテーションセミナー2014。昨年に引き続き、2回目の開催となりました。大好評につき、講師の金井さんに伝えたかったことを8つのポイントでまとめてもらいました！



今回のプレゼンテーションセミナーは①学生プレゼンバトル 2014 最優秀プレゼンテーションの実演、②内容に関する質疑応答、③プレゼンテーションの解説及び質疑応答、という3部構成をとっていました。本稿を読んでいる皆さんが知りたいのはプレゼンテーションのテクニックや、分かりやすいプレゼンテーションのための工夫に関することだと思いますので、ここでは③の内容をまとめます。

伝えたいこと1 良いプレゼンテーションかどうかは目的次第！

全てのプレゼンテーションは何かしらの目的がある行為だと思います（例、とあるものについて聞き手に理解してもらう、聞き手を説得する、聞き手を楽しませる、プレゼンバトルで優勝する、など）。私は、目的を上手く達成できるプレゼンテーションが良いプレゼンテーションだと思っています。プレゼンテーションの目的を最も効率的に達成できる作り方をすることが重要です。

伝えたいこと2 聞き手を飽きさせないことを意識する！

分かりやすい話でも聞いてもらえなければ意味がありません。話を聞いてもらえない原因は無数にありますが、その中に一つ、飽きられてしまうからという原因があると思います。つかみを上手く使ったり、話の展開を良く考えたり（聞き手が「今ここでこの話をしてるのだろう？」と疑問に思う話の展開はNG!）、難しい話を避けたり、話し方や内容にメリハリをつけたり、と聞き手を飽きさせないためにできる工夫はたくさんあります。特にメリハリをつけることはとても大切です。

伝えたいこと3 研究の意義は思ったより伝わりにくい！

特に基礎研究をしている方は注意です。研究の意義を伝えるテクニックとして、オススメの方法があります。昨年度の最優秀プレゼンターであった山本さんが提案していた、「倒す相手を仕立て上げる」というテクニックです。まず、問題を提示し（例、「〇〇という社会問題、良くないですよね？」）、聞き手にはそれに共感してもらいます。その後、「その問題、解決すると良いですよね？」という問いかけをし、「解決すると良い」という意見を会場全体と共有します。最後に「私の研究で解決します」という一言をつけます。これで会場は「すげー」となるはず。こういう具体的なテクニックを駆使することも、研究の意義を伝えるためには有効だと思います。

2014/12/12 発行

伝えたいこと4 聞き手の立場からのシミュレーションを怠らないこと！

聞き手が変わると話の難易度、内容、論理展開、とるべき工夫が全て変わります。聞き手の層にあったプレゼンテーションを作ることが重要です。それをクリアするためには、他者に自分のプレゼンテーションを見てもらうことが効果的です。

伝えたいこと5 情報の取捨選択を厳しく！

分かりにくいプレゼンテーションには情報の詰め込みすぎが原因のものが多くあります。情報を詰め込みすぎると話が速くなって処理が追いつきませんし、理解していない状態で話が続くので悪循環です。話題が増えるほど明瞭な論理展開をすることも難しくなります。適切な情報量はわりと少ないので「せっかく作ったスライドなのにもったいない」などと考えず、プレゼンテーションの目的達成のために不要な情報はどんどんカットしてください。

伝えたいこと6 マイクの距離や滑舌に注意！

マイクを使う際の注意点です。マイクと口が近いとすぐ聞きづらい声になります。聞き手が聞きやすい音量・話し方を意識することも重要です。滑舌にも要注意です。特に、語尾がごにょにょしてしまう人が多いので、文章は最後まではっきり発音することを意識すると良いでしょう。

伝えたいこと7 台本読みは極力やめて「読ませるプレゼン」から「聞かせるプレゼン」に！

台本読みはメリハリがないプレゼンテーションになる一因だと思います。スライドの文字を読ませるプレゼンテーションではなく、自分の話を聞き手に聞かせるプレゼンテーションを意識すると良いと思います。自分は聞き手に話しかけているんだ！という気持ちでプレゼンテーションに臨むと良いと思います。

伝えたいこと8 良いプレゼンテーションを作るために一番必要なのは努力量！

もちろん、世の中には元々プレゼンテーションの才能がある人もいます。その人の知識量によってもプレゼンテーションの良し悪しは変わるでしょう。元々プレゼンテーション向きのテーマと、プレゼンテーションに不向きなテーマがあると思いますので、テーマ選びによっては良いプレゼンテーションを作りづらいかもしれません。しかし、これらの要因の影響よりも、努力量（具体的には、工夫できるところがないか考えたり、色々な方法を試行錯誤したり、何度も練習を重ねたりすること）によって、プレゼンテーションの良し悪しは決まると思います。誰だって準備不足のプレゼンテーションは下手です。努力次第では、あなたのプレゼンテーションは今より良いものになると思います。

最後に セミナーに参加された方の声をご紹介します♪

ためになりました。
目的にあわせて、工夫されていることがよく伝わってきました。



想像以上に勉強になりました。
つかみ、さび、メリハリなど、就活の面接でも意識して行こうと思います。



充実した時間でした。
スライド作りの時間よりも話の展開や内容の熟考にかかる時間の方が断然長いというお話が記憶に残りました。また1つモチベーションの維持につながりました。

